

編集後記

この後記が活字になるのは平成元年2月ということになる。新年号は、まだ何となくこちない感じがするが、それでも気分的には何かが変わったようである。強いて文字にするならば、新しい万年筆を使いはじめた時のような感じに例えることもできる。

さて今回の特集は「リハビリテーション医療と情報処理」である。昨年、横浜で開催されたリハビリテーション医学会で同名のパネル討論があった。この特集の白野氏は同パネル討論のパネリストでもある。ただ枠組が少し異なり、葺石氏のものはごく限られた範囲での初期情報を元にし、単一機能の予後予測、木村氏のそれはチーム内での情報処理と伝達、長尾氏の場合は病院単位での情報の管理、白野氏の論文は地域単位のように各々異なったレベルでの御仕事で、小さい単位の事から一つ一つ処理して大きい単位に結びつけるという考え方が異なったレベルでそれぞれ必要な事がわかり興味深い。

本号では報告等が3編収録されている。

染矢氏の脳性麻痺と構成障害は大変興味深い。ラマ教の教典を見て何とか漢字に結

びつけようとしたり、エジプトの壁画上の象形文字を何となく絵の1部として見ていた経験を思い出した。

園田氏の調査は高位頸椎損傷患者の社会復帰について1例ではあるが準備、対策、通院からレクリエーションの注意事項まで詳しく述べており、このような症例を持つ方々への貴重な助言で溢れている。

林田氏の短報は氏らが用いている座位耐性訓練の基準に関する経験を述べたもので、その有用性が窺える。

講座では蜂須賀氏の筋力と筋萎縮の評価、中森氏のCTの解剖、とくに顔面・頭蓋底・眼窩領域について、があり、いずれも私自身教えられる事が多かった。

さて岩谷氏の巻頭言では、いくつかの問題点が示されている。1つは理想と現実のギャップが整形外科医にもリハビリテーション医にもあるということだろう。しかしそのギャップが全く異なったレベルで発生しており、両者ともその対策に腐心している現実がある。学生時代に、外科医が大外科構想の話のついでに整形外科医不要論を述べたのを思い出し、思わず苦笑した。ここで、これ以上触れることはしないが、この話題は方々で繰り返し議論されてゆくことであろう。(明石 謙)

編集顧問

天 児 民 和
大 島 良 雄
河 邨 文 一 郎
五 味 重 春
津 山 直 一
土 屋 弘 吉

編集委員

明 石 謙
上 田 敏 甫
緒 方 淑 雄
大 井 嗣 雄
大 川 直 一
千 野 直 一
横 山 巖

編集同人

赤 津 隆
今 田 拓
今 村 哲 夫
岩 倉 博 光
江 口 壽 榮 夫
小 川 孟
荻 島 秀 男
奥 川 幸 子
加 倉 井 周 一
小 島 蓉 子
斉 藤 正 也
笹 沼 澄 子
澤 村 誠 志
高 橋 勇
高 松 鶴 吉
武 智 秀 夫
土 屋 和 夫
土 肥 豊
永 井 昌 夫
中 村 隆 一
野 島 元 雄
野 村 歆
長 谷 川 恒 雄
初 山 泰 弘
福 井 園 彦
松 村 秩
三 島 博 信
矢 谷 令 子
米 本 恭 三
渡 辺 英 夫
(五十音順)

総合リハビリテーション (第17巻 第2号)

1989年2月10日発行 (毎月1回10日発行)

発 行 株式会社 医学書院

代 表 者 金原 優

1部定価 1,750円 (配送料60円)

(年ぎめ予約購読料 19,920円)
(送料弊社負担)

〒113-91 東京都文京区本郷5-24-3

電話 社内案内 (03) 817-5600

本誌編集室直通 (03) 817-5704

(担当: 山田・細田)

販売部直通 (03) 817-5659・5660

ファクシミリ (03) 815-7802

振替口座 東京 7-96693番

印刷所 三報社印刷(株): 電話 (03) 637-0005

広告申込所 (株)東広社: 電話 (03) 409-8803

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku Tokyo © 1989, Printed in Japan.

本誌の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますので御注意下さい。